図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
42(2): 213-214, 1995

□魚類相

The Marine and Estuarine Fishes of South-western Australia, a Field Guide for Anglers and Divers.—B. Hutchins and M. Thompson. 1983. Western Australian Museum. 103 pp. ISBN 0-7244-9758-7. 約¥1,700 (A$ 24.00). オーストラリア南西部から記録のある500種のうちの344種をカラー絵で紹介している. (HK)

Freshwater Fishes of the Northern Territory.—H. K. Larson and K. C. Martin. 1989. Northern Territory Museum of Arts and Sciences, Handbook Series No. 1. xv+102 pp. ISBN 0-7245-2513-0. 約¥1,750 (A$ 24.95). オーストラリアのいわゆる北部地方に分布する淡水魚および汽水魚の紹介. 58種の淡水魚の生息場所と分布, 形態的特徴などをカラー写真あるいは絵で紹介している. また巻末にはチェックリスト(86種, うち淡水魚は63種)を備えている. (HK)

Keys to Genera & Species for Students and Research Workers, Supplement to Coastal Fishes of South-eastern Australia.—R. H. Kuiter. 1994. Crawford House Press, NSW, Australia. 85 pp. ISBN 1-86333-101-8. 約¥1,000 (A$ 15.00). すでに出版されている Coastal Fishes of South-eastern Australia (魚雑41巻1号の図書紹介参照)で紹介された魚類の属あるいは種の検索表. 目あるいは科のレヴェルはすでに前著の Pictorial keys で紹介されているが, 本書では, 主な科ごとに属, 種の検索表を紹介している. バインダーでとめただけの簡単な本ではあるが有用. (HK)

Fishes of the North-eastern Atlantic and the Mediterranean.—J.-C. Hureau (ed.). 1994. Expert-center for Taxonomic Identification/UNESCO. ISBN 90-75000-8-1. CD-ROM version (Macintosh/Windows). 約¥27,000. 1984年に3分冊で出版された本のCD-ROM版. 220科, 687属に含まれる1287種の魚類の検索やさまざまな生物学的情報が収録されている. 内容はアップデートされているというが, 基本的に大きな変更点はみられない. 検索文字を入力する以外はマウスをクリックするだけですべてが操作できる. 絵や文章をコンピュータ上で切り貼りすることはできなかった. 倍速ドライブでは反応の遅さに多少いらいらさせられる. 今後, 我が国でも魚類図鑑などこうした出版形態を考えるときがきているのだろうが, 本に慣れているとどうしても使いづらいものがある. Macintosh版ではハイパーカードを使ってプログラムが組まれている. System 7.0以降, Hyper Card version 2.0以降, そして4 Mb以上のRAMが必要となる. (MM)

The Complete Diver's & Fishermen's Guide to Fishes of the Tropical Eastern Pacific.—Gerald R. Allen and D. Ross Robertson. 1994. Crawford House Press, Bathurst, Australia. xx+332 pp., 15 pls. ISBN 1 86333 099 2. ¥9,790. カリフォルニア湾中央部からエクアドルまでの東部太平洋熱帯域の浅海性魚類を多数のカラー写真で紹介. ダイバー向けとタイトルにあるが, 各種の識別形質が示されているので分類の専門家にとっても有用な本である. (KM)

Collins Pocket Guide: Coral Reef Fishes: Indo-Pacific & Caribbean.—Ewald Lieske and Robert Myers. 1994. Harper Collins Publishers, London, UK. 400 pp. ISBN 0 00 219974 2. ¥2,980. インド・太平洋産1700種, 大西洋産350種を掲載したダイバー用ガイド. 色彩のついた各魚種の絵と数行の説明がある. (KM)

□魚類生態学・行動学

Theory and Application in Fish Feeding Ecology.—Deanna J. Stouder, Kurt L. Fresh and Robert J. Feller (eds.). 1994. University of South Carolina Press, Columbia, South Carolina, USA. xiii+390 pp. ISBN 1-57003-013-8. ¥8,100. 魚類の摂餌生態に関する21論文を掲載. (MS)

Population Production and Regulation in the Sea: A Fisheries Perspective.—David Cushing. 1995. Cambridge University Press, Cambridge, UK. xii+354 pp. ISBN 0-521-38457-5. ¥10,350. 海洋の生産力, 海洋環境と魚類資源量の変動, 魚類資源量に影響を及ぼす密度依存的調節要因, 魚類の再生産機構などについて解説. (MS)

□生態学・行動学一般

生物群集の多変量解析. —小林四郎. 1995. 蒼樹書房,

東京. 194 pp. ISBN 4-7891-2053-8. ¥3,296（税込）. 生物群集の分類や座標づけ，ニッチ分析などの手法を解説. (MS)

Community Ecology.—R. J. Putman. 1994. Chapman & Hall, London, UK. xii＋178 pp. ISBN 0-412-54490-3 (cloth), 0-412-54500-4 (paper). 群集生態学に関する最新のテキスト. (MS)

□ **魚類学一般**

Australian Native Fishes for Aquarium.—R. Leggett and J. R. Merrick. 1987. J. R. Merrick Publications, NSW, Australia. 241 pp. ISBN 0-9591908-1-3. 約¥2,600 (A$ 38.00). オーストラリアのアクアリストのために書かれた本. タンクの設置から採集，給餌，繁殖の方法，病気の対処，写真の撮り方などの説明に続いて，73 種の淡水魚と汽水魚を紹介している. 各魚種については，カラー写真とともに名称，分布域の他，とくに飼育に関する特徴を説明している. (HK)

□ **その他**

東京湾の地形・地質と水. —貝塚爽平（編）. 1993. 築地書館株式会社，東京. 211 pp. ISBN 4-8067-2192-1. ¥2,987（税込）. 東京湾の生い立ち，東京湾湾底と周辺地域の第三紀層および第四紀層，東京湾と周辺の沖積層，東京湾に入る水，東京湾の水と流れ，湾底の最新堆積物の計 6 章からなる. 東京湾をフィールドにする研究者にとって便利な一冊. (MM)

新さかな大図鑑. —小西英人（編）. 1995. 週刊釣りサンデー，大阪. 559 pp. ISBN4-87958-022-8 C3645. ¥6,700. 釣り人を対象とした本であるが，各種の鰭条数，形態的特徴，生息場所，分布などが簡潔に書かれている. 魚を釣り上げた直後に撮影した写真を使用しているので，色彩の情報として貴重である. 著者は荒賀忠一，望月賢二，中坊徹次，小西和人，今井浩次，御勢久右衛門. (KM)

会員通信・News & Comments

魚類学雑誌
42(2): 214-217, 1995

大阪市立自然史博物館の紹介
Osaka Museum of Natural History

大阪市立自然史博物館は大阪市を南北に横たわる上町台地の南のはずれに位置する東住吉区内にある. ここには大阪市の南部の人々の憩いの場となっている長居公園があるが，博物館はこの公園の植物園内に建てられている. 公園内にあることもあって，周りは非常に静かで町なかの施設としては恵まれた環境にある. 当館は大阪市の教育委員会に属する博物館施設であるが，大阪市には当館以外にも理工系の市立科学館（旧電気科学館），民族・歴史系の市立博物館，市立美術館がある. 当館の敷地面積は 6744 m^2. 建物は地下 1 階，地上 3 階建てで延べ床面積は 7066 m^2 ほどある. 毎年の維持，運営のための費用は約 1 億 3 千万円（1993 年度決算）ぐらいである. 常設展示は［人と自然］をメインテーマとしたストーリー展示である. そしてこのテーマが［大阪の自然］，「地球と生命の歴史」，「生物の進化」，「自然のめぐみ」というサブテーマをもつ 4 つの展示室によって展開されている. 最新の目を引くようなハイテク展示はないが，随所に学芸員の思い入れがあって，何度来ても飽きない展示になっている. このことはここ数年コンスタントに記録されている 20 万人前後の入館者数が物語っているように思う. しかし，この展示も更新後約 10 年が経過しており，最近の学説にあわない部分も多くでてきたり，また，展示物の劣化，コーナーによっては新しい展示手法による効果的展示の可能のある箇所などもでてき，現在，新たな展示更新が計画され，実行に移されつつある. 展示にはこの他に，地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり，学芸員の研究成果を広く市民に還元すると